

聖書日課 『からし種』 2024.7.28-8.4

<p>7月28日 (日) イザヤ 51章</p>	<p>「わたし、わたしこそ神、あなたたちを慰めるもの」(12節)、 「わたしはあなたの口にわたしの言葉を入れ／わたしの手の 陰であなたを覆う」(16節)。主の日。「わたしこそ神」と語りぬ いてくださっている主のもとに集い、その慰めと言葉をいただ こう。礼拝から始まる一週間、この主の御手の陰に依り頼む信 仰をいただいて、それぞれの働きの場に遣わされていこう。</p>
<p>29日 (月) イザヤ 52章</p>	<p>「(わたしの民は)その日には、わたしが神であることを、『見 よ、ここにいる』と言う者であることを知るようになる」(6節)。 神に背を向け、神の語りかけに耳をふさいでいるような私たち のことを決して諦めることなく、私たちの心が開かれてその愛 の御業に「気づく」、そのときを信じ祈り続けてくださっている神 がおられる。今日、その声を聴く信仰を与えてください。</p>
<p>30日 (火) イザヤ 53章</p>	<p>「わたしの僕は、多くの人が正しい者とされるために／彼らの 罪を自ら負った」(11節)、「彼が自らをなげうち、死んで／罪 人のひとりに数えられたからだ」(12節)。最後の晚餐で主イエ スは弟子たちに杯を手渡して言われた。「これは多くの人のため に流されるわたしの血、契約の血である」と。十字架の主の深い 執り成しにおいて、今日、神の前に祈れることを感謝。</p>
<p>31日 (水) イザヤ 54章</p>	<p>「あなたの天幕に場所を広く取り／あなたの住まいの幕を広 げ／惜しまず綱を伸ばし、杭を堅く打て」(2節)。主イエスと 共に歩む信仰の道。「あなたの天幕を広げよ」とはどういうこと だろう。見えない神を信じる道は困難も伴うけれど、わたしの 小さな信仰を「はるかに」越える恵みが「必ず」用意されている ということ。「惜しまず綱を伸ばす祈り」をささげていこう。</p>

聖書日課 『からし種』 2024.7.28-8.4

<p>8月1日 (木) イザヤ 55章</p>	<p>「天が地を高く超えているように／わたしの道は、あなたたちの道を／わたしの思いは／あなたたちの思いを、高く超えている」(9節)。主はアブラムを天幕の外に連れ出し、「天を仰いで、星を数えよ」と言われた(創世記 15:5)。「天を仰ぐ信仰」をもって、「雨も雪も、ひとたび天から降れば、むなく天に戻ることはない」(10節)という、主の語りかけを聴いていこう。</p>
<p>2日 (金) イザヤ 56章</p>	<p>「わたしは彼ら(宦官)のために、とこしえの名を与え…その名は決して消し去られることがない」(5節)、「わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる」(7節)。フィリポと出会ったエチオピアの宦官(使徒 8章)は、イザヤの言葉を通して、彼に「とこしえの名」を与えるイエス・キリストの救いにあずかった。主の愛はすべての時を貫いて生きて働きたもう。</p>
<p>3日 (土) イザヤ 57章</p>	<p>「わたしは、高く、聖なる所に住み／打ち砕かれて、へりくだる霊の人と共にあり／へりくだる霊の人に命を得させ／打ち砕かれた心の人に命を得させる」(15節)。「高く、聖なる所に住んでおられる神が、打ち砕かれて、小さくされた者と共にいて命を得させてくださる。ふつうはありえない救いが、イエス・キリストの十字架に成就した。この主の御名を賛美しよう。</p>
<p>4日 (日) イザヤ 58章</p>	<p>「人はあなたを『城壁の破れを直す者』と呼び／『道を直し、人を再び住まわせる者』と呼ぶ」(12節)。あちこちに分裂と分断がある社会の中で、イエスは私とあなたとの関係の破れを直し、意志疎通の道を再び通じさせ、私の心にあなたを、あなたの心に私を住まわせてくださる。私とあなたの間立つ十字架の上で、父なる神に執り成し祈ってくださる。</p>